

菊池

菊池秋まつり

10月13日から15日までの3日間、菊池市民広場をメイン会場に開催されました。13日には上町御所通りの能場で、国重要無形民俗文化財「御松囃子御能」が奉納されました。14日には第38回チーム対抗のど自慢大会を開催。各出演チームが工夫を凝らしたパフォーマンスや美しい歌声を披露し、寒空にも関わらず会場は大いに盛り上がりを見せました。15日の通し物には、地元区などから17団体約1050人が参加。市民広場で出発式が行われ、菊池一族24代武者による掛け声と共に菊池北中、菊池南中学校の吹奏楽部の演奏に合わせて出発しました。秋晴れの天気の中、みこしや踊り、獅子舞、菊池女子高校の千本槍、武者行列などさまざまなパフォーマンスが披露され、沿道からは大きな声援が送られました。



1.2. 掛け声を上げる菊池一族鎧武者 3.4.5.6. 通し物ではパリエティに富んだ出し物が披露された



菊人形・菊まつり

11月1日から15日までの15日間、菊池市民広場で開催されました。今年で23回目を迎えるこのまつりには、毎年県内外から約10万人が来場。菊池の秋の風物詩となっています。会場では、南北朝時代に菊池一族が奮戦した「太刀洗いの場」、「袖ヶ浦の訣別」の場面を再現した菊人形のほか、色とりどりの大輪菊の鉢植え・懸崖・盆栽・小菊など約3000点を展示。爽やかな菊の花の薫りとともに来場者を楽しませました。

これらの作品は、「菊まつり推進委員会」のメンバーが年間をとおり丹精込めて育てたもの。一番の見所である菊人形は、人形の形をかたどった枠に沿って菊を植え込んで、追わせていき、長い時間をかけて勇壮な武者姿に仕上げました。また大懸崖は、1本の苗を枠に這わせ2メートル30センチ以上になるまで1年間かけて育成。一つ一つ手間隙をかけて心を込めて育てた菊が菊池の秋を彩りました。



1.2. 会場には色とりどりの菊が展示された 3. 最優秀賞の大懸崖 4. 最終日の即売会は大勢の来場者でにぎわった 5. 菊池一族が奮戦した場面を再現した菊人形



七城ふるさとコスモスまつり



10月20日、七城総合グラウンド、菊池川河川敷、七城温泉ドーム周辺で開催されました。当日は晴天にも恵まれ、県内外から約500人が参加。河川敷に咲くコスモスを眺めながら5キロ、10キロのウォーキングを楽しみました。抽選会では新米の「七城のこめ」やメロンなどの地元特産品が当たる度、喜びの声が上がっていました。また牛肉消費拡大の一環として焼肉が振る舞われ、参加者は菊池産の牛肉に舌鼓を打ちました。ステージでは演歌歌手・前田瑠美さんのコンサートや「grow act」によるダンス、餅投げ、熊本県出身お笑いコンビ「もっこすファイヤー」のステージなどで盛り上がり、会場は賑わいを見せました。ファイナーレには色とりどりの花火が秋の夜空に咲き乱れ、観客を魅了しました。



1. カントリーミュージシャン・チャーリー永谷さんの軽快なライブ 2. お笑いユニット「やうちブラザーズ」のパフォーマンスに観客は大爆笑 3.5. メインイベントの祭孔大典 4. ころう君も参加した米釣り大会

泗水



11月3日、孔子公園で開催されました。今回も「しすいコスモスマラソン大会」「孔子まつり」「農業まつり」を同日開催し、今年で7年目を迎えました。午前中、ステージでは孔子公園書道展の表彰式が行われ、マラソン大会には市内外から約450人が参加。3キロ、5キロ、10キロの部門に分かれ、朝の清々しい空気を感しながら健脚を競いました。午後からは、いよいよメインイベントの「祭孔大典」が



スタート。華麗な衣装を身にまとった舞生の踊りや、中国古来の楽器を奏でる楽生の演奏を地元有志の皆さんが披露し、来場者を魅了しました。その後はカントリーミュージシャン「チャーリー永谷」やコミックグループ「やうちブラザーズ」のステージなどで会場は大盛況。鞠智城のマスコット「ころう君」も登場し、米釣り大会や最後の大抽選会に華を添えました。会場では終日、地元農畜産物の販売やJJAの各部会の展示販売、フォトコンテストがありました。